



甲府市内に造られた花子の実家



また、明治・大正・昭和という激動の時代を丁寧に描いていることも、このドラマの見どころの一つ。「ろうそくの灯の下で」



# 主人公の故郷 山梨で克蘭クイン

NHK連続テレビ小説

# 「花子とアン」

県では「富士の国やまなしフィルム・コミッション」を設け、映画やテレビドラマなど、さまざまな映像作品の撮影の誘致・協力に取り組んでいます。

そしてこの春、山梨県を舞台としたNHK連続テレビ小説「花子とアン」が始まります。このドラマは、本県出身の翻訳家・村岡花子の波瀾万丈の半生記です。今回は、ヒロイン・花子を演じる吉高由里子さんに、花子への思いやロケで訪れた山梨の印象などを伺いました。

## 夢見る少女が 夢を送り届ける女性へと 成長していく半生記

「村岡花子は『赤毛のアン』の主人公・アンと、どこか似たところがある人だったのではないかと。故郷・甲府の風景や寄宿舎での生活など、自分の少女時代や育った環境を思い浮かべながら『赤毛のアン』の翻訳をしたのではないかと。『花子とアン』の構想は、そんな仮説からスタートしました」と、チーフ・プロデューサーの加賀田透さんは言います。

ドラマでは、小作の娘として生まれ育つ

た花子が、10歳の時に東京のお嬢様学校に飛び込み、困難にぶつかりながらも、力強く成長していく姿が描かれます。華族のお嬢様たちとの駆け引きや、花子が頭の中で思い描く妄想など、朝からおなかを抱えて笑えるようなシーンもたくさん出てきて、見た人が元気になる作品です。

## 実在した人物を演じて 感じることは

この役を演じて数カ月がたった吉高さんは、花子はけなげで、意志が強くて、きちんと認めることができる女性だと言います。「絶対に言い訳しないし、何事にも

逃げないで果敢にぶつかっていく。私はどちらかというとすぐに逃げたい方なので、そういう姿勢には正されることが多いです」。その一方で「家族のことをとても誇りに思っていて、それが花子の力になっている。そこは私も同じなので、すごく共感します」と、花子への思いを語ってくれました。

また、実在した人物を演じるプレッシャーは、想像以上のようです。「登場人物としてじゃなく、村岡花子自身を好きという人もいます。お孫さんの恵理さん(ドラマ原案「アン」のゆりかご)村岡花子の生涯」作者村岡恵理さんが時々タジオに顔を見せてくださるので、お話を伺ったりしていると、どんなに花子さんを大事に思っているか伝わってきます。だから、そういう、人の思いを大切にしないくちやいけないって」。村岡花子という一人の女性がいて、その人が亡くなった後も、その人の書いた物が次の世代、その次の世代に受け継がれている。今は、そういったことを意識しながら演じているそうです。

飯を食べるシーンがあっただけですけれど、そういう時代の人たちが力強く生きて残してきた物を、風化させずに残そうとする現代の人、未来の人…。時代をつなげていくというか、運んでいくということを考えているようにもなりました」

平成26年度前期 連続テレビ小説

## 花子とアン

2014年3月31日(月)～9月27日(土)全156回放送予定  
NHK総合(月～土)午前8:00～8:15ほか

山梨の貧しい農家に生まれ、東京の女学校で英語を学び、故郷での教師生活を経て翻訳家となるヒロイン花子。震災や戦争を乗り越え、子どもたちに夢と希望を送り届ける人へと成長していく彼女の、明治・大正・昭和にわたる波瀾万丈の半生記。

ヒロイン・安東はな(村岡花子)役  
**吉高 由里子** (よしたか・ゆりこ)さん  
1988年7月22日、東京生まれ。2004年デビュー。2006年「紀子の食卓」で第28回ヨコハマ映画祭・最優秀新人賞、2008年には「蛇にピアス」で第32回日本アカデミー賞・新人俳優賞など、数々の賞を受賞。数多くの映画やテレビドラマに出演し、幅広い役柄を演じている。昨年は映画「横道世之介」でお嬢様育ちのヒロインを、ドラマ「ガリレオ」で強気な新人刑事を演じ、際立った存在感を発揮した。

村岡花子(本名:はな)は、1893(明治26)年、甲府市に生まれた。小学校入学前に東京に転居し、10歳の時東洋英和女学校に進学。このころにカナダ人宣教師から英語や西洋の生活習慣を学び、数多くの英米の文学に原書で親しんだことが、後に作家・翻訳家として活動していくための礎となった。同女学校を卒業後、1914(大正3)年、故郷甲府の山梨英和女学校に赴任し、英語教師として教壇に立つ傍

ら、作品集を出版したり、少女向けの物語や童話を雑誌に投稿したりした。後に、花子はこの教師時代を「青春」と呼んでいる。その後、東京に戻って編集者となり、結婚。文筆家としての活動を始めた。英米文学の深い教養を生かして童話の執筆や翻訳を行っていた花子はやがてルーシー・モード・モンゴメリの名作『ANNE OF GREEN GABLES』と出会う。友人のカナダ人宣教師が



山梨英和女学校での教師時代の村岡花子 (提供:赤毛のアン記念館・村岡花子文庫)

# 日本に夢と希望を伝えた翻訳家 村岡花子



花子が翻訳した『赤毛のアン』(1952年5月 三笠書房)初版本 (山梨県立文学館寄託)

ら贈られたこの本を、太平洋戦争の最中においても翻訳を続け、1952(昭和27)年、『赤毛のアン』として初めて日本に紹介した。そこには、人々に愛情を注ぎながら成長していく主人公アンの姿が、軟らかな文章で生き生きと表現され、多くの日本人に夢と希望を与えた。

花子は、執筆や翻訳の他にも、ラジオの子供向けニュース番組に出演したり、恋や友情、さまざまな思いを、たくさんの短歌に託して表現したりと、幅広い活動を展開。75歳で亡くなるまで、数多くの作品を残した。

そして『赤毛のアン』は、刊行から60年以上を経た今日もなお、多くの人に読まれ、愛され続けている。



赤毛のアン記念館・村岡花子文庫(東京・大森)に再現されている花子の仕事机 PHOTO:©K.HORIUCHI (提供:赤毛のアン記念館・村岡花子文庫)



吉高さんの甲府ロケは、昨年11月に始まりました。山あいのロケ地には、家が造られ、田んぼが耕されて、実際に人が住んでいるかのような世界が創られています。「山がすぐそばにあつてすごいなあと思ったり、高い建物がそんなに無いせいか空がすごく近くに感じられたり...、行き帰りの中央道からは、富士山もきれいに見えました。撮影中、地元の方からワインの差し入れを頂いたんですけど、赤も白もすごくすすりしていて飲みやすく、おいしかったです」

甲府ロケでは、花子の家族とのシーンが撮影されました。おじい役の石橋蓮司さんと、おかあ役の室井滋さんが、本番以外でも本当の親子のような、とてもいい雰囲気だったり、「この、おかあ、だったらこの場面はこんなふうにするんじゃないかな」と、室井さんと、おとう、役の伊原剛志さんが相談しながら決めたりしている姿などを目の当たりにしたという吉高さん。「ああ、この人たちと一緒にできてうれしいって心から思えて、この作品に対する愛情がどんどん膨らんでいきました」

そして、避けて通れないのが甲州弁。方言指導の先生に教わっても、なかなか難しいようで、「奥が深いですね。何でも語尾に

## 作品への愛情が どんどん膨らんだ 甲府でのロケ

「山がすぐそばにあつて  
すごいなあ  
空がすごく近くに感じます。」

「朝ドラは長丁場。9月まで撮影は続きますが、一生に一度しか演じられない朝ドラのヒロイン。精いっぱい頑張ります。山梨の皆さんも期待しててください」

花子を育てた山梨に住む私たちも「花子とアン」を応援し盛り上げていきましょう。

克蘭クインから数カ月、吉高さんは原案の作者である恵理さんをはじめ、共演者の方々、スタッフの皆さん...、いろいろな人が良い作品にしようという気持ちを強く持つて臨んでいる姿に気付き、そのたびにとてもうれしく思っているそうです。「これ、絶対にいい物になる。愛される作品になるわ」と感じながら、日々演じていると言います。

そんな吉高さんをはじめ、多くの人の



「朝ドラは長丁場。9月まで撮影は続きますが、一生に一度しか演じられない朝ドラのヒロイン。精いっぱい頑張ります。山梨の皆さんも期待しててください」

花子を育てた山梨に住む私たちも「花子とアン」を応援し盛り上げていきましょう。

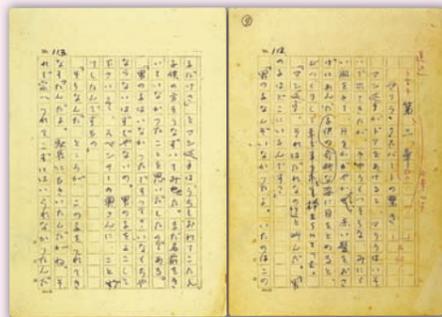


4月12日から県立文学館で開催

## 企画展 村岡花子展 ことばの虹を架ける～山梨からアンの世界へ

直筆の「赤毛のアン」翻訳原稿や、日本で初めて刊行された『赤毛のアン』初版本の他、花子の書簡や写真、短歌ノート、愛用の品などを展示。村岡花子の、波乱に満ちた生涯と文学の原点を探ってみませんか。

展示室の一角には、アンの部屋を再現しています。



村岡花子「赤毛のアン」翻訳原稿(山梨県立文学館寄託)



■開催期間 4月12日(土)～6月29日(日)  
■観覧料 一般 600円/大学生 400円  
※各種割引などあり。詳しくはお問い合わせください。

【県立文学館】甲府市真川1-5-35  
TEL 055-235-8080 FAX 055-226-9032



# 最近の県内 ロケ地

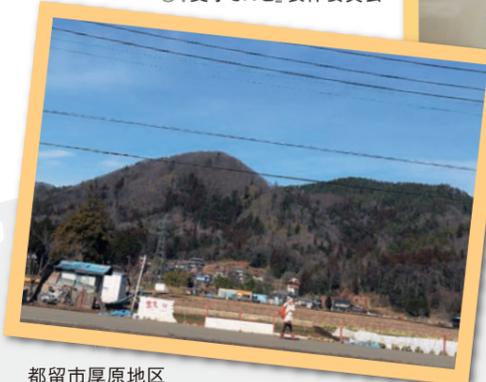


NHK  
2014年大河ドラマ  
軍師官兵衛



甲府市内

NHK  
2014年度前期  
連続テレビ小説  
花子とアン



©「麦子さんと」製作委員会

都留市厚原地区



麦子さんと  
2013年公開映画  
監督:吉田恵輔



都留市城南公園



全て北杜市内



甲斐市内



山梨県立図書館

太陽の  
坐る場所  
2014年秋  
公開予定映画  
監督:矢崎仁司



富士川町立増穂中学校

## 「映像」でやまなしの魅力を発信!

映画やテレビドラマ、CM、旅番組など映像作品の撮影を誘致し、ロケ地の情報提供や必要な手続きの調整など、撮影に関する二元的な窓口を担う公的機関をフィルム・コミッションといいます。

県でも「富士の国やまなしフィルム・コミッション」を平成16年度から設置し、映像を通じた山梨の魅力発信に取り組んでいます。

首都圏からのアクセスの良さや、日本の日照時間、山々や森林・清流といった表情豊かな景観などの好条件をPRし、これまで、さまざまな作品の撮影を誘致してきました。

今後、映像制作者に積極的な情報提供を行うとともに、ロケの現場をサポートすることによって、富士山やフルーツ、ワインといった「やまなしブランド」を国内外に発信していきます。



「やまなしブランド」の数々

作品づくりに参加しませんか?

エキストラ募集!

撮影協力企業・団体募集!

(各種レンタル業者、美術関係、仕出し関係、宿泊関係、飲食店、演劇団体、撮影に協力可能なビル・住宅工場などの物件ほか)

応募いただいた方および企業・団体は、データベースとして登録し、必要に応じて制作会社からの依頼内容をご連絡します。

応募は富士の国やまなしフィルム・コミッションホームページから。



県内の豊富なロケーションや、実際に撮影が行われた場所、撮影された番組の放送情報などを紹介しています!

やまなしフィルム 検索

撮影のため、交通規制などが行われる際には、ご協力をお願いいたします。



問い合わせ先  
富士の国やまなしフィルム・コミッション事務局(観光企画・ブランド推進課内)  
TEL 055-223-8878 FAX 055-223-1574

